
リミット

広崎咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
リミット

【Nコード】
N0408N

【作者名】
広崎咲

【あらすじ】
気づいていないだけでリミットはある。

何事にもリミットがある。外からセミの声が聞こえるがセミの命のリミットは1週間、今見てるサッカーの試合のリミットは残り25分程度だ。大学2年の僕はサッカーを見つつ物思いにふける。僕は気づかないうちに無駄に時間を消費し、さまざまリミットがあったことに後から気付き、いつも後悔するんだ。それは小さいものから大きなものまである。レポートの提出期限だったり、卵の賞味期限だったりする。

今でも忘れられないリミットは、そう、初恋のリミットだ。

高校の入学式の後のクラスオリエンテーションのとき、僕は同じクラスの女の子に恋をした。僕たちの高校は、クラス替えがないため、3年間同じクラスで過ごす。その時の僕は無限の時間が残されているように思えた。だけど、リミットは確かに存在していたのだ。告白するチャンスは何度もあった。でも、毎回、次があるさ、もっと仲良くなってから。と、先延ばしにしていた。遠足、2人きりになった放課後の教室、同じ班だった修学旅行、一緒にダンスを踊った体育祭。しかし、僕はリミットがあることに気づいていなかった。永遠に続くと思っていた学生生活に終わりが来るなんて、あの頃は思ってもいなかった。でも、終わりの時はやってきた。卒業式。僕はこの日。彼女に思いを伝えようと決心していた。だけど、できなかった。彼女を前にするとどうしても言えなかった。結局、僕の初恋は思いを伝えられぬまま幕を閉じた。

テレビのサッカーの試合も1-0のまま後半44分を迎えた。どうやら、このまま終わるようだ。そのとき、僕のケータイが鳴った。2年ぶりの彼女からのメールだった。

「今年はいつ地元に帰ってくるの？」

サッカーの試合は3分間のロスタイムに入っていた。リミットなんて、勝手に自分で思い込んでるだけで実はまだ、試合は続いている

のではないか。僕の初恋もまだ続いていた。返信しようとケータイを開いた瞬間、負けていたチームが見事なミドルシュートで同点ゴールを挙げていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0408n/>

リミット

2010年10月21日23時19分発行